

ま ら め き



お正月の風景

第21号

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成22年1月31日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしずく

ケアホームCOCO : 〒299-1607 千葉県富津市湊 1070-3

TEL 0439-67-3711

豊岡光生園 : 〒299-1742 千葉県富津市豊岡3535-1

0439-68-1711

三芳光陽園 : 〒294-0825 千葉県南房総市上堀 280

0470-36-3211

鴨川ひかり学園 : 〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297

04-7099-3311

湊ひかり学園 : 〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18

0439-70-6551

『つねさんが亡くなった』

入所者を看取って思う」と

つねさんが亡くなった。

お年は九十六歳。診断名は老衰。

老人ホームでは珍しくない話だ。

でも、つねさんは特別だった。

つねさんは、三芳光陽園で初めて看取った入所者となったのだ。

つねさんの口癖は「ばくか」

「おはよう！」と声を掛けても「ばくか」

「おいしい？」と聞いても「ばくか」

遠くから目が合うと「ばくか」

「おやすみ」と声を掛けても「ばくか」

でも、時々何を思ったのか、

「ありがとう」なんて言ってくれることがあった

何百回かに一回の「ありがとう」が聞きたくて

、毎日声をかけていた。

つねさんが亡くなった夜。

つねさんは、意識が無くなっていく寸前で夜勤

者の五月さんに向かって目を開けたんだそうだ。

きつと何か言いたかったにちがいない。

最後に「ばくか」だったのか、「ありがとう」

さういふ、さういふ、さういふ。



でも、施設に駆けつけて、最初に見たつねさんの安らかな顔には、「ありがとう」って書いてあったように見えた。合掌。

.....

『親亡き後、我が子等が恙無く生涯を全うする為の支援者と、その場を持つ事』を目的として平成二年に開園した三芳光陽園。平成十八年度の介護保険制度改正から、施設でも看取りの機能が求められるようになってきている中、開園から二十年という年月を経て、初めて入所者を看取ることができ、ここ数年、法人内の施設から移られる方も多くなっており、『親なき後』が現実のものになってきていると実感されるこの時期、施設として看取りに取り組むことができ、実際に看取りが行えたということで、三芳光陽園という施設を立ち上げた法人の理念、「親なき後」をたくしてくださった親御さんたちの思いに對し、やっとはじめの一步が踏み出せたような気がする。誰もかれもという訳にはいかないが、入所者、家族の思いを大事にして、病院その他関係機関と連携を取りながら、今後も一人の人間の最期を看取るといふ大きな役割を担っていかれたらと思う。

開園から数えて、入所された方は二百十名。

退所された方は、先日のつねさんを入れて百五十六名。開園した平成二年に入所された四十九名中、現在もお元気に過ごされている方は、わずか三名。

『ゆく川の流れば絶えずして、しかもこの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。世の中にある人とすみかと、またかくのごとし。』

(中略)

住む人もこれに同じ。所も変はらず、人も多かれど、いにしへ見し人は、二、三十人が中に、わづかにひとりふたりなり。朝に死に、夕べに生まるるならひ、ただ水のあわにぞ似たりける。』

『方丈記』より

『諸行無常』、世の中の一切のものは常に変化し生滅して、永久不変なものはないということ、この施設に異動して六年が過ぎ、頭が薄くなり、名実ともに坊主の域に達しようとしているこの頃、入所者が亡くなり、新しい入所者が決まる度に思い知らされる。

そんな中でも変わらないもの、変わってはいけないもの、それが法人の理念であり、法人を立ち上げた親御さんたちの思いであると考え。

施設を預かる者として、その重い思いを両肩に背負いながら、決して目先の利益や独りよがりの思い込みで変えてしまふことがないよう、心していかなければならない。入所者の最期を看取り、今、改めて思う。



(鴨 短命 こと 不健康法師)

学園新聞



「第六回クリスマス会よりの」

十一月中旬、昼時の学園に一本の電話がかかってきました。三年前、支援員として働いていた松本千春さんと、留学先の遙かアメリカはフロリダの地からでした。

「学園のクリスマス会に是非、歌わせて欲しいんだけど、あとはメールするねー!」で、電話は切れました。

九月の学園祭では、流行初期の新型インフルエンザの猛威で、予定していた団体参加が出来なかった事もありました。そんな関係でクリスマス会は、時期的な面を考慮し、アットホームな形でと考えていた矢先でした。実行委員の提案からは年配のご夫婦で、手品をして慰問している方が是非に! という話で、出し物がトントン拍子で決まりました。装飾関係では、テーマの「ホワイトクリスマス」〜雪とひかりの世界へようこそ〜から、雪の結晶をイメージした手作りの創作物を保護者と一緒に作成するなど、大掛かりなものはありませんが、手作りでぬくもりを感じるものに仕上がりました。

クリスマス会の一週間前、あすなるクリニッククリスマスコンサートに、帰国したばかりの松本さんが出演されるということで、招待も受けていたので参加しました。ほのぼのとしたコンサートでも手話を交えて歌われた「君は愛される為生まれた」が、とても印象的で、是非この歌も歌って!とお願ひし、プログラムの松本さんのテーマになりました。

クリスマス会は順調に進んできたはずですが、映像が出ない、などハプニングが発生、プログラムの前後を逆にしたり、伸ばしたり、楽屋はてんやわんやでしたが、松本さんの歌声とご夫婦の手品が、利用者を巻き込んで楽しませてくれた事というまでもありません。最後に保護者会代表の方の挨拶の中に「君は愛される為生まれた」に感動しました!と言われ、実行委員として、ほっとしたと言っと思いと、また来年に繋げられるという思いでいっぱいでした。

感動を感謝したいと思います。

立木



美味しかったネ! 湊ひかり米

「おかわり!」元気な声で職員におかわりと言ったのは「さんです」。

なんとこの日のご飯は、園で育てたお米なのです。

暑い暑い日差しの中、地域と生活介護と児童デイの利用者が一生懸命、田植えをしました。

大変な作業でしたが、初めての田んぼ作業は意外と楽しい!

「今日は田んぼ行くの?」

「田んぼが気になるんだよ!」

と毎日気になっていたWさん。田んぼ作業が楽しみで学園に来ているよと言っても過言ではなかった位、楽しかったようです。

今は自然に帰してしまいましたが、この田んぼにいた小さいカメを園に連れて帰り育てていたこともあるのですよ。このカメは、あっという間にみんなの人気者になりました。余暇の時間には沢山の方達がカメの入った水槽を嬉しそうに眺めていました。

そんな素敵な思い出が沢山詰まった田んぼで出来たお米だと思つと、美味しさもひとしおです。一粒一粒、大切に噛みしめながら美味しくいただきました。

金子



光陽

『二〇〇九年 三芳光陽園を振り返る』

一月

お年寄りたちが活けてくれたきれいな花に飾られ、二〇〇九年が始まりました。



二月：三芳幼稚園の子供たちが、お遊戯を見せてくれました。かわいい踊りに拍手の嵐でした。



三月：兵庫県の障害者施設から二名の見学者が来園しました。障害者の高齢化はかなり問題となってきたようです。



四月：新しい年度が始まりました。介護報酬の見直しが行われました。佐久間ダムの桜を見に度々出かけました。



五月：園内研修で装具や眼鏡をかけ、お年寄りの世界を疑似体験しました。腰が曲がった状態で見える範囲を確認し、その状態で歩く大変さを実感しました。



八月：夏祭りが行われました。

途中、意地悪な雨に邪魔されましたが、無事に終えることができました。

「濡れて風邪をひいてもいいから外で見てほしい・・・」
「かなえてあげたいけど・・・」
本当に意地悪な雨でした。



九月：敬老会を行いました。

最高齢のお年寄りは九十六歳。敬老のお祝の方は十三名。もう少し家族の方の参加があれば・・・

独り言です。



十一月

ショートステイご利用者、すいさんのお孫さんによる三味線の演奏会が実現しました。笑顔で手拍子を打つお年寄りたちの顔と、背筋をぴんと伸ばして、少々緊張気味に演奏されるすいさんのお孫さんの顔が印象的な演奏会でした。すいさんのお孫さん、また来てくださいね。



開園以来、初めて入所者を看取りました。詳しくは、施設長（不健康法師）が「風と語ろう」で書いています。

十二月：順調に経過してきた二〇〇九年でしたが、最後になって炊飯器や冷凍庫が使えなくなり、厨房からの漏水に電子錠の故障とトラブルが発生しました。

年が明けて二〇一〇年は開園二〇年目の年となります。施設や設備はどんどん古くなりますが、気持はいつも新しく行きたいと思えます。

二〇一〇年もよろしくお願ひします。



園だより

『なんか得した気分だね』

いつもなら、お尻をずって体を回転させながら移動する義徳くんだが、今日は、車椅子を降りた瞬間から仰向けになり青空をじっと見つめている。ぼかぼかとした陽射が心地良い。

「義徳くん！ そんなに気持ち良いの？」

職員も隣で横になってみる。

静かに聞こえる波の音、青空にゆっくり動く雲。鴨川オーシャンパークでの一時。

足湯に盛り上がる女性の笑い声。

大人になるとなかなか味わえないこの心地良さ。いつの間にか義徳くんの寝息が聞こえてくる。

通り過ぎる人たちが、義徳くんを見て、微笑みを投げかける。

確実に、義徳くんが感じている心地良さ、穏やかな気分が人々に伝播していく。

なんか得した気分！

今日も良い日でありますように。



(水野)

『ハッピーソフトクリーム』

良く晴れた日の出来事です。JOBチーム開拓隊は、東京湾観音へ行きました。昼食を食べ終え、まったりした時間を過ごしていました。近くには初々しいカップルがベンチに座りソフトクリームを仲良く食べていました。

しばらくすると展望台方向より豊岡レディーストップ3には入る、存在感たっぷりの八木下さんと今年七月より勤めた職員の佐藤さんが二人仲良く手をつなぎながら急ぎ足で走ってくるのが目に留まりました。

「すみませーん！ トイレどこですかー？」と、佐藤さんの声が聞こえてきます。

二人が私に近づくとつれ、佐藤さんの形相が険しくなっているのが見てわかりました。どうやら、八木下さんをトイレに案内したいが、場所がわからない様子です。トイレは、私の目の前にありました。

(ここ！ ここ！)と、私は目線で合図し、指をさし続けました。しかし、通じないのか、佐藤さんは、八木下さんの片手はしっかり握ったまま立ち止まり、更に険しい表情で私にもう一度、「トイレ、どこですかあ？」と叫んでいました。

その時です。「あっ」と驚く光景が私の目に飛び込んできました。なんと、佐藤さんが立ち止まった所は、カップルがベンチでソフトクリームを食べている最中のあの場所だったのです。八木下さんの右手は佐藤さんの手をしっかり握っていましたが、フリーとなっていた黄金の左手はしっかり彼氏の手元に届き、ソフトクリームは電光石化、八木下さんの口の中で溶けだしていったのです。私は、狼狽しました。

「佐藤さん、アイス！ アイス！」

けれども、勤めて間もない佐藤さんは、八木下さんをトイレに入れなければならぬという業務を遂行するために、他の事は全く耳に入らず、私の『ア、アイス！ アイス！』の音が、なぜか『そこトイレ！ そこトイレ』に聞こえてしまっていたのです。

佐藤さんが気付いて振り向いた時には、八木下さんの口の周りにソフトクリームの痕跡だけが残っていました。

「ご、ごめんなさい！ 申し訳ありません。」

ひたすらお詫びする私たちの前で、啞然としている彼氏をよそに、連れの彼女のほうは、大爆笑していました。

しばらくして、カップルは仲良く手をつなぎながらおみくじを引き、縁結びに願いを込めて、笑顔で松の枝に結んでいきました。

* * *

将来、この日の『ソフトクリーム』が、二人の懐かしい思い出話として、一生残ってくれますように♡

(M)



太陽のしずく

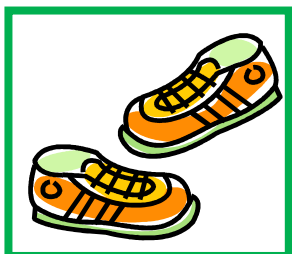
『施設長！ しっかりとしずくよ！』

朝、各ケアホームから太陽のしずくにやって来る皆は、靴と水筒を持ってきます。靴の中身は、着替えや服薬だったり、趣味の小物だったりします。時には、おもちゃのピストルが入っていたり、大事な装飾品がさりげなく入っていることもあります。それとは別に、週一回、シャツ類をジョブチーム「どんぶらこ」に届けたりします。

ある月曜日のこと、この日は、休日に洗った上靴と、予備の着替えをめいめい持参する日でした。皆は、少し多い荷物を手に、元気一杯の顔を見せてくれました。

山口三夫さんも、太陽のしずくに着くと、ロッカーまで一直線。靴もきちんとロッカーへしまいます。いつもだと、室内を仔細ありげに一巡し、職員に促されて椅子に座るのですが、今日は落ち着かず、玄関に戻っていきます。

どうやら、上靴を探しているようです。下駄箱の一杯ひと枠を、背伸びして見えています。ここにも見当たりません。尚も三夫さんは、靴脱ぎ用に置いてある椅子の下をかがんでみたりしてい



ます。

あんなに片方靴が脱げてしまっても気にしない三夫さんが、今日は、こんなにも『上靴がない』と、玄関から離れないのです。もう一度、

皆の下駄箱を一つ一つ確認し、やっぱり自分のがないことが分かると、

「うっ、うっ、うっ」

と、室内に戻って行きました。

三夫さんは、何人かの職員をかき分けて、鳥居施設長の左腕の裾を掴むと、下駄箱まで引っ張っていったのです。鳥居施設長の背丈の半分しかない三夫さんが、鳥居施設長を引っ張って歩くさまは見ものでした。

(俺の上靴無いぞ！)

(皆履いているのに、俺の無いぞ！)

(どうしてくれるんだよ)

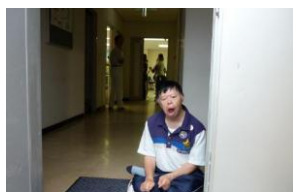
と、下駄箱の中の他の靴を投げたりしながら、抗議していました。

上靴を準備し忘れたのは、三夫さんが住む「勝手の家」で昨晩夜勤をした鳥居施設長だったのです。

「申し訳ない。ごめんなさい！」

三夫さんに頭を下げ続ける鳥居施設長でした。

(ち)



あとから来る仲間を待つ。



4月、毎日の「出勤」が始まった。

息抜き DAY



『きらめき』の発送



ジョブチーム「きゅっときゅっと」
お弁当箱を洗って光生園に収めます。



ジョブチーム「開拓隊」

出会いを求めて出かけます。



ジョブチーム「どんぶらこ」

ケアホームのシャツなどの洗濯のおしごとです。



COCO de COCO



ケアホームCOCOの未来予想図(初夢)

さわやかな風に揺らぐ花々が、おいでおいでをしています。COCOの住人は朝から忙しそうに庭と家を行ったり来たり・・・でも、その横顔はなんとなく不安そう。いよいよ今日は【ニこちゃん喫茶COCO支店】のグランドオープンなのです！



支店長の一樹さんは『ヴァーオ』と朝から気合入れまくり！「ニこちゃん喫茶本店からもオープニングスタッフとして、いつものジョブメンバーが全員集合。

修さんは、早くもコーヒー片手にサクラとして一役買って出てくれています。香取さんは炊事場で食器洗いスタンバイオッケーモードいっぱい。浜崎さんは記念すべき日の記録を、自慢のカメラに収めようとベストショットを狙っています。道博さんはチャリティー募金箱を抱えて、お客さまを待ち構えて満面のニコニコ顔。千原君は緑・青・黄・赤、四色のゴミ袋を持って、オープンテラス風に作りあげた庭で、すでにゴミを物色中！

ジョブチームとCOCOのメンバーのコラボレーションで迎えたこの佳き日。ほうら、ゆつくりと坂道を登ってくる近所の方々が見えましたよ。



『イラストイマセ〜！』

「近所の方々の憩いの場であり、利用者との共生の場となることを願い開かれた、文字どおりのオープンカフェへようこそ！

そんなケアホームもアリかな、なんて飛行機雲を眺めながら、談笑できる日待ち望みながら、浜崎さんは今日も心地良い日差しの中で、長いホースと格闘しながらCOCOの草木に水をかけてくれています。放水のプリズムから生まれる虹に微笑みながら・・・。

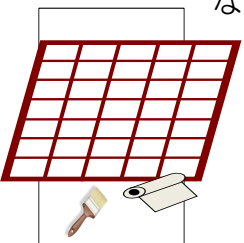


庄司さんと障子張る！

あけぼの荘で生活する鹿島さんは日頃居室に一人で過ごす事が多い方です。

ある日、鹿島さんに「あけぼの荘の障子、大分破れてきたから今度の土曜日に障子張替えようか？」と、声をかけました。

その時はそっけない返事でしたが、いざ土曜日にあけぼの荘に行くとき夜勤者さんから「今日、庄司さんと障子張るって言っていましたよ」と言われました。鹿島さんの記録を読むと、先日声をかけてから今日に至るまで、色々な人に「今度シヨージ張る！」と言っていたようで、思った以上に楽しみにしていたようでした。いざ障子を張ろうと



(椎熊)

すると、思った以上に難しく、道具をさらに購入してから、張り替える事になりました。再び、張り替え始め、鹿島さんに「庄司さんと障子張る」って言ったんだから、しっかりね」と言っと、しっかりとやってくれました。

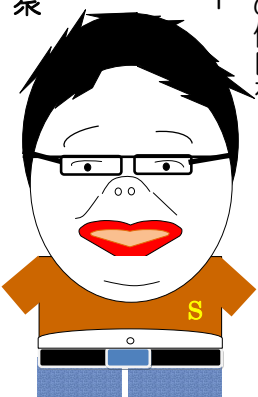
結局一日で全て張り替える事は出来ませんでした。鹿島さんは、張り替えた障子を見て満足そうな表情をしていました。鹿島さんの何気ない一言が、一日の休日を、障子張替えDAYへと変えてしまっていました。

メタボ三人衆

ある休日の朝、世話人さんからたくさんじゃがいもを頂きました。私が、この量では、COCOだけでは食べきれないと判断して、「ほか」へおすそ分けする事にしました。

普通なら車で行くのですが、最近、COCOの道博さん、小林さん、私庄司のお腹周りが気になっていましたので、メタボ三人衆と銘打ちまして、歩いて届ける事にしました。

結局四十五分もかかって「ほか」につきまされた。さすがに三人共に疲れて、途中でジュースやコーヒーを買ってがぶ飲みしました。帰宅後、「運動しても、コーヒーやジュースをがぶ飲みでは意味がない」と、気づきました。メタボ三人衆のダイエット計画はまだまだですね！



『楽しいはずが・・・でも・・・』

昨年の十一月一日から、学園の前を通る路線バスが新しくなった。ほぼ毎日見ているのに、今まで乗ったことがなかった。せっかくなので乗車体験を企画した。その時の川間正和さんの様子を聞いて下さい。

何日も前から、「バス乗る〜」「黄色いバス乗る〜」と楽しみそうにしていた。もちろん乗車当日もウキウキ気分。バス停に向かう途中に職員からお金を手渡される正和さん。しかし、職員からの一言でウキウキ感が・・・

『このお金を無くしたらバスに乗れないよ』
握力測定でもしているかのような正和さんの右手。バスに乗ってもその状態は続いていた。

時間が経つにつれて、慣れてきたのか徐々に表情も良くなって再びウキウキ気分。そこにまたまた職員からの一言が・・・

『バスを降りるところでボタンを押さないとずっとバスから降りられないよ』

今度は車内放送に全神経を集中して聴いている。

いざ、自分たちが降りるバス停が放送されて恐る恐るボタンを押す正和さん。

鴨川ひかり学園 三平 綾乃さん



彩乃さん、成人おめでとうございます。未熟児で生まれ、育つのか心配でしたが、元気に頑張ってくれてありがとう。これからも無理をせず一緒に頑張ろうね。母より

薄光会の新成人の男女御二人を紹介致します。

祝 成人



するとバスはいつもの見慣れた風景のところ
で停まり、乗車体験終了。

正和さんに対して、余分なことを言い過ぎたかなあとも思ったが、最後の正和さんの満足そうな顔を見たら良かったかなとも思う。

これからも様々な体験をして、
いろいろ感じてもらいたい
と思っています。

佐々木

豊岡光生園 岡田 真彦さん



父から
成人おめでとう。これからも体に気をつけて頑張って下さい。

職員 在原から
ご成人おめでとう。
ついに、この日がきましたか。
入所当初は、それは派手に行動していた君がいて、それを1年1年お互いの気持ちが少しでも分かる様に、そして近づく様にと、色々とり取りをしていた職員として、本当に嬉しい日となりました。
これからは、本当の人生です。
色々な体験を通して大いに喜怒哀楽をぶつけて欲しい思います。

【編集後記】

今年の新成人の数が、全国的に少ないそうですね。平成生まれの新成人を、心より祝福致します。